

鬼・鐵・忠

ONI

TETSU

CHU

— 鉄をテーマに古代から現代を視るプロジェクト —



鉄と榎忠展

11/11 [金] - 23 [水・祝]

10:00 - 18:00 総社アートハウス

入場無料

※車でお越しの方は、リブ21第3駐車場の指定エリアに駐車してください。

旧総社町初代町長の旧宅、池上邸^{いけのうえ}をアートスペースとして改築しオープンさせる「総社アートハウス」を会場に、古代^{こご}たたらから生まれた鉄と、鉄の作家・榎忠^{えのきちゆう}氏の滞在制作によるアート作品を展示します。「アート・人・コミュニケーション」をテーマに古民家の雰囲気を残しながらリニューアルした空間で、鉄を通じてアーティストや来場者から様々な会話が生まれることを期待しています。

シンポジウム「吉備と釜山と榎忠を語る」

11/12 [土] 14:00 - 16:00

総社市総合福祉センター 3階大会議室

定員 150名
入場無料 (申込不要)

総社で、そして釜山ビエンナーレ2016において鉄の作品を展示中の榎忠。その釜山ビエンナーレ2016の日本部門キュレーター^{むらげ}を努めた美術評論家の榎木野衣。古代吉備のたたら再現で村下職を努める阿曾の鉄師の林正実。この3人が、鉄とアートを巡って熱く語ります。

榎忠 × 榎木野衣 × 林正実



1944年生まれ。「ハンガリー国へハンガリーで行く」で有名な鉄の作家。大量に産み出される鉄の廃材に新しい生命を吹き込む独自の世界を展開。



1962年生まれ。美術評論家、多摩美術大学教授。「日本・現代・美術」等著書多数。数多くの展覧会のキュレーションを手掛ける。



1948年生まれ。総社市阿曾の鉄師。2001年より最先端で活躍している美術家や建築家、美術館館長を講師に招く鬼ノ城塾塾長。

鬼・鐵・忠

— 鉄をテーマに古代から現代を視るプロジェクト —

「アートプロジェクトおかやま」では、地域にアーティストが滞在し、地域資源を活用した制作活動を展開するアーティスト・イン・レジデンス事業として、総社市を会場に「鬼・鐵・忠—鉄をテーマに古代から現代を視るプロジェクト—」を実施します。

鬼ノ城の麓、総社市の奥坂、東阿曾、西阿曾、久米、黒尾地区を古くは吉備国賀夜郡「阿曾郷」と呼び、古代からたたらが行われ、鉄の文化を持ち込んだ鬼(温羅)の末裔(鍛冶師や鋳物師)の暮らす鉄の町だったとされています。本プロジェクトは、その技術を伝承しようとしている林正実氏と、林氏の主宰する「鬼ノ城塾」で繋がりのある鉄の作家、榎忠氏とのコラボレーションによるアートプロジェクトです。林氏指導のもと、市民参加で古代たたらを再現し、そこから生まれた鐵と、鉄の作家榎忠氏の滞在制作によるアート作品を対比しながら古代から現代を見つめようとする企画です。



ワークショップ 参加者募集

「血吸川の源流で砂鉄とり」

10/8 [土] 9:00 - 12:00

砂川公園管理事務所前集合

お問い合わせ: 総社市教育委員会文化課



ワークショップ

「6世紀の吉備のたたら製鉄をできるだけ忠実に再現したたたらの操業」

10/15 [土] 9:00 - 19:00

砂川公園管理事務所広場

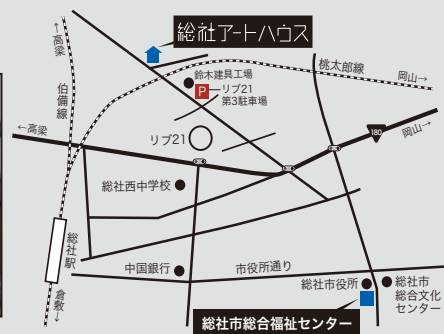
自由に見学でき、体験もできます。[榎忠さんも参加予定]

総社アートハウス

岡山県総社市門田491



[企画] 伊永和弘
[設計・施工] 松本剛太郎



総社市総合福祉センター

岡山県総社市中央一丁目1-3



砂川公園

岡山県総社市黒尾792



【お問い合わせ】 総社プロジェクト実行委員会 総社市門田491「総社アートハウス」 TEL 090-1334-8907 (伊永)、090-8129-1382 (松本)
総社市教育委員会文化課 TEL 0866-92-3491